

要 旨

本研究では、児童が英語活動を楽しめるように、コンピュータ・インターネット（以下ICTと表記）を活用し「必然的な場」を設定することで、コミュニケーションへの意欲や国際理解を高めることを目指して実践を行った。帰国したALTとビデオメールで交流させ、現ALTとのコミュニケーションの場を取り入れることで、自主的な交流活動が可能となるように仕組んだ。その結果、児童は、コミュニケーションを図ることに楽しさを感じ、もっとコミュニケーションを図ろうという意欲や態度が見られるようになった。また、自文化を意識し、異文化に興味をもつようになった。

キーワード 必然的な場の設定 ICT活用 コミュニケーション力

1 研究の目標

学習者主体の学習活動を仕組むことで、児童が興味をもって自ら意欲的に学ぼうとする英語活動の指導の在り方を探る。

2 目標設定の理由

小学校における英語活動は、将来、英語やいろいろなコミュニケーションツールを使って、様々な国の人々と積極的に交流しようとする態度を育てることを重視している。平成13年4月に文部科学省から出された『小学校英語活動実践の手引』には、英語活動のねらいについて、「言語習得を主な目的とするのではなく、興味・関心や意欲の育成をねらうことが重要である。」⁽¹⁾と記されている。そのため、異言語をもつ人と「交流したい、分かり合いたい」という強い動機付けが必要であろう。しかし、県内児童の実態として、日常生活の中で必然的に異言語を使った交流ができる環境にある児童は多くない。だからこそ、授業においてそのような場面を設定していくことが必要である。

そこで、本研究では、グループ研究の方向性を受け、ICTを活用することで高学年児童の興味・関心を高めながら活動できる指導の在り方について、授業実践を通して提案したい。ICTを用いることで双方向性を生かした交流が可能となり、異言語・異文化をもった人々との交流を楽しむ体験を通して、児童の活動意欲の一層の向上につなげたいと考え、本目標を設定した。

3 研究の仮説

児童にビデオメールを制作させ、インターネットを利用して帰国したALTと交流させることで、英語を使ってコミュニケーションを図る必然性をもたせれば、その人のもっている文化に興味をもったり、積極的にコミュニケーションを図ろうとしたりする態度を養うことができるであろう。

4 研究の内容と方法

- (1) ICTを活用した英語活動の在り方について、文献や先行研究を基に理論研究を行う。
- (2) 児童のアンケート調査と、ICTを活用した授業の単元を開発する。
- (3) 所属校の第6学年で授業実践を行い、児童の変容に基づいた仮説の有用性を検証する。

5 研究の実際

(1) 理論研究

小学校における英語活動は、総合的な学習の時間の中の「国際理解に関する学習の一環」として

位置付けられている。「第15期中央教育審議会の答申（平成8年7月）」では、国際理解教育のねらいとして、異文化理解・異文化尊重の態度、共に生きていく資質や能力の育成、日本人として、個人としての自己の確立、外国語能力の基礎や表現等のコミュニケーション能力の育成の3点が挙げられている。このように全人教育的な視点に立ったものであることから、国際理解教育は、「外国語会話」「国際交流活動」「調べ学習」などを有機的に関連付けて行うことが求められている。また、理解したり表現したりする技能の伸びも、英語活動に対する興味・関心及び参加する積極性（意欲）に表れてくると考えられる。したがって、小学校では、英語の言語能力のみを重視することなく、方略能力を包含した、まずは「使いたい」という意欲面が重視される。

身近に感じられる海外に住む相手と、ICTを通じて交流することは、児童の活動意欲をより高めることになる。これはICTを有効な手段として活用することで必然的な場を生み出すことができるということから、まさに「教育の情報化」の担うところである。英語活動において、ICTを効果的に活用する授業デザインを行うことで、児童の英語活動に対する活動意欲を高め、理解を深めることができると考える。

(2) コミュニケーションの必然的な場の設定と授業デザイン

小学校英語活動の本質は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することにある。そのためには、コミュニケーションを体験させる必要がある。コミュニケーションを図ろうとするときの最大の要素は「相手に伝えたいという気持ち」と「こんなことを伝えたいという内容」であろう。そのような状況を生む必然的な場を設定すれば、児童は必要な言葉を選択し、四苦八苦しながらもコミュニケーションを図ろうとする主体的な姿が実現すると考える。

そのためには、コミュニケーションの目的を児童が明確にもつことができる授業デザインが必要である。その際に、コミュニケーションを行う人物の設定は大きな要素となる。その上で、顔の表情や音声の様態、コミュニケーションが行われる時間と場所なども考慮すべき要素となってくる。

そこで、コミュニケーションの相手をカナダに帰国した前ALTに設定した。それは次の点から有効と考えたからである。学級全員が知っていて親しみのある人物であり、安心感がもてる。伝える内容に必然性がある。日本の文化についての知識と理解があり、平仮名や日本語にも多少の理解がある。

カナダに帰国した前ALTとの交流を仕組むことは、ICTを用いた授業デザインによって可能となる。さらに、高学年になるに従い活動そのものへの関心・意欲の低下傾向が指摘されている現状にも対応することができる。ICTの有効性として、外国に住んでいる異言語・異文化をもった人物を設定できること、短時間での双方向の交流が可能となること、インターネットによって自分たちの作品が発信されることへの意欲が期待できること、都合のよい時間・場所で何度も見返せること、動画が送れることで、英語を書いたり話せたりしなくても表情やジェスチャーで伝えられること、情報モラルの関係上、正確な内容でなければならないことなどが挙げられる。それにより、自文化・異文化を意識し調べる活動が設定でき、現在のALTに直接コミュニケーションを図らざるを得ない状況（児童のモチベーション）を生む授業デザインが可能となると考えた。

(3) 単元の全体構想

英語混じりのジェスチャーで、主体的に表現しようとする児童の姿がイメージできるような単元を組み立てるため、「マイケル先生にビデオメールを送ろう」という15時間単元を組み、ICTを利用する時間を大きく5回設定した。それにより、教師と児童とのめあてを一致させ、児童自身が主体的に学習を進めていくことのできる場を保障することができると思った。また、繰り返し撮り直しのきくビデオやHPを活動の振り返りの場とすることで、児童の評価活動を効果的に取り入れることができ、自分が学んでいることの意義も実感させることができるよう仕組んだ（次頁表1参照）。

表1 ICTを活用した単元計画

時	活動内容()及び指導上の留意点(＊)	ICT活用
1 2	＊ 英語活動の雰囲気高めめる。 ＊ マイケル先生との交流を思い出させ、楽しみながらカナダのトロントの位置を知らせておく。(世界地図ゲーム)	
3 4	＊ 個人で巨勢小のHPを閲覧させる。 マイケル先生からのビデオメール、2年2組からのお返事ビデオメール、それに対するカナダからのビデオメール ＊ モデルとして作成したビデオコンテンツで、制作上のポイントを紹介する。同時に、短い英会話ビデオが多数載っているWebサイトを紹介し、言語を介しなくとも身振り手振りの表現や表情で趣旨が伝わるということを理解させ、ワークブックと併用して、ビデオ制作の理解を深めさせる。 ＊ 「情報モラル」についてワークブックを用い指導する。Webに載せるに当たり、信憑性が必要であることを理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを使うことにより意欲を高める。 ・ 自分たちの最終の姿をイメージ化させる。 ・ ビデオ制作の理解を深めさせる。 ・ 情報モラルについて知らせる。
5 6	テーマ決定、グルーピング 企画書の検討、内容の計画 調べ学習開始	
7	＊ 新ALTジェイ先生との親睦を深めさせる。 ＊ 日本のシステムとは違うアメリカの学校事情を話してもらうことで、異文化に興味をもたせる。	
8 9	ビデオ制作のための準備・開始 <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマごとの調べ学習(カナダの事情・日本文化についてetc.) ・ 取材(校内にいるジェイ先生に質問やインタビューできる場の設定) ・ 紙面上での撮影計画(シーンごとの台本・役割分担) ・ 英語に翻訳(表情・身振りを含む。) ・ 練習(撮影可能な班は撮り始める。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調べ学習時にリンク集を使うことで作業の能率を高め、理解を深める。 ・ 城東中の英語教師へ英語表現を尋ねるメールアドレスを準備する。
10	グループごとにビデオ制作	
11	中間発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 作成途中のビデオを見て、ジェイ先生や友達からアドバイスをもらう。 ・ 撮り直しの計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクタで投影し、互いの作品を見合うことで相互評価させる。インターネット上の作品作りであることでの意欲を高める。
12	グループごとに再ビデオ制作	
13	＊ 自分たちの完成ビデオメールをHP上で自由に閲覧させ、達成感をもたせる。 ＊ 世界中の人々がインターネットを活用していることを実感させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットに自分たちの作品が載り、双方向で自由に閲覧できることで達成感をもたせる。
14	＊ HP上のマイケル先生からのお返事メールをプロジェクタに投影し、今回の活動の達成感を味わわせる。自分たちの作ったビデオについての反省や、今回の活動を通しての感想を書かせる。 ＊ グループから個人の活動へ返し、マイケル先生へのメールを作らせる。個人あてであること、PDF加工して送ることで、画像やひらがなの使用ができることを知らせ、活動意欲をわかせる。 ＊ 将来、多くの人々と自分から積極的にコミュニケーションを取ろうとしていく素地を培う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットを利用したことでの利便性を確認させる。 ・ ワードでメール作成させ、コミュニケーションの良さを体感させる。今後自分からコミュニケーションを取っていく態度を養う。
15	＊ ジェイ先生との最後の交流となるので、互いの文化に意識した活動を取り入れ、自文化や異文化に興味をもたせる。 ＊ 中学校へとつながるよう、個人的な交流を大切にさせる。	

(4) 児童の変容と考察

ア 英語活動に対する児童の意識の変容

事前調査の時点では、英語活動が好きな理由を、「ゲームをして楽しいから。」と大部分の児童が答えていたが、単元終了後は、「いろんな国の人と話せるし、遊べるから。」、「私は日本人だから、いろんな英語が知りたいので好き。」、「英語が学べるし、外国の人とふれあえて楽しいから。」という理由に変わった。また、次回の英語活動への要望には、ゲーム中心の遊びを希望していた児

童は 17%にとどまり，英語活動のねらう意欲的な活動への要望が多く出されていた（表 2 参照）。

表 2 次回の A L T との英語活動への要望（活動後）

- 【親しむ活動】
- ・ ジェイ先生とスポーツをしてみたい。何かを食べに行きたい（寿司とか）。
- 【文化に関する活動】
- ・ ジェイ先生と日本の文化（書道や将棋・囲碁）などのゲームと一緒にしてみたい。ジェイ先生の国のゲームとかをみんなでやりたい。
 - ・ ジェイ先生とも、マイケル先生とみたいに、メールなどで話したい。ジェイ先生の国についていろいろ教えてもらいたい。いろいろな国のことについて、いろいろ知りたい。
- 【ICT活用・コミュニケーションに関する活動】
- ・ メールです！！ やりとりして、いろいろいっぱい話したいです。
- 【英語の言語面】
- ・ 日本語と英語を組み合わせで、ジェイ先生と歌を作る。その歌は卒業式で歌うとか。
 - ・ もっともっと英語について詳しく知りたいです！！英語でしゃべれるようになりたいです。

イ コミュニケーションへの意欲

9月にとった事前調査では，女子は最初から活動意欲が高く，それに対して男子の意欲面が極端に低かった。この時期意欲が停滞しがちな男子の伸びで，この活動の成果を見取りたい。

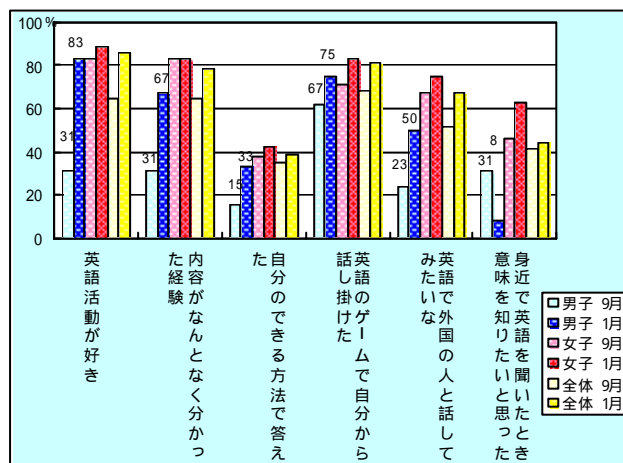


図 1 言語面への関心・意欲・態度

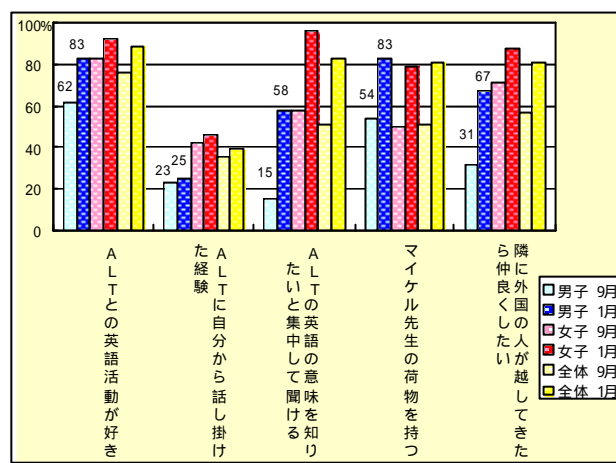


図 2 コミュニケーションへの関心・意欲・態度

図 1，図 2 に見られるように，事後調査の結果は，9月と比較すると全般的に意識が高くなっている。「身近で英語を聞いたり見かけたりしたときにその意味を知りたいと思ったことがありますか」という項目のみ下がってしまったが，逆に「A

表 3 どのようにして仲良くなりますか。（事後調査）

・ 言葉が通じなくても，ジェスチャーなどで積極的に話し掛けたりして仲良くなりたいです！英語を教えてください。逆に日本語を教えてください。

・ 一緒に遊んで仲良くなりたいです。

・ 自分からあいさつをしに行ったりして仲良くなりたい。

・ 毎日声を掛ける。

・ どうにかして話し掛ける。日本のことを教えてください，外国のことを知りたい。

・ いろいろ，日本と外国を比べてみたりしてみること。

・ 新しい，違う文化をたくさん知りたい。

図 3 活動全体を振り返って

コミュニケーションへの意欲

自文化理解

異文化理解

0% 20% 40% 60% 80% 100%

■ A ■ B ■ C

表 3 どのようにして仲良くなりますか。（事後調査）

- ・ 言葉が通じなくても，ジェスチャーなどで積極的に話し掛けたりして仲良くなりたいです！英語を教えてください。逆に日本語を教えてください。
- ・ 一緒に遊んで仲良くなりたいです。
- ・ 自分からあいさつをしに行ったりして仲良くなりたい。
- ・ 毎日声を掛ける。
- ・ どうにかして話し掛ける。日本のことを教えてください，外国のことを知りたい。
- ・ いろいろ，日本と外国を比べてみたりしてみること。
- ・ 新しい，違う文化をたくさん知りたい。

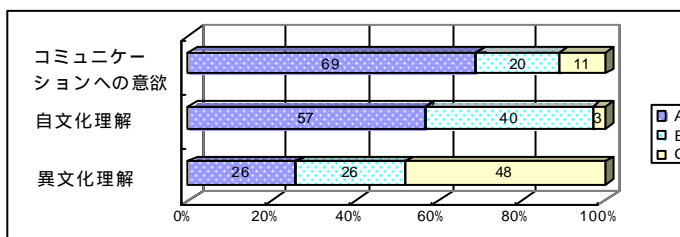


図 3 活動全体を振り返って

ニケーションは大切だと客観的記述にとどまっているもの(20%), C評価:活動の感想(11%)という結果になった。総じて,コミュニケーションの大切さを感じていたと言える(表4参照)。

表4 コミュニケーションを図ることについて

<p>【Aの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人と話す「自信」みたいなのができた。 ・ 自分からコミュニケーションを取ると,返事も返ってきて,両方幸せな気持ちになれていいと思った。 ・ 国や言葉が違って,伝えられることに気付いた。 ・ 私は外国の人とはあまり話したことがなかったけれど,マイケル先生とビデオメールをして,自分が少しでも勇気を出して話をすれば,向こうも喜んでくれる。 ・ 外国の人と話すのは緊張したけど,頑張って伝えて,相手が理解してくれたときは嬉しかったです! ・ コミュニケーションを取らないと,相手が思っていることがよく分からないから,ジェスチャーとかでもいいからしようと思った。 ・ 外国人に話し掛けられて,とにかく何か反応しないと,もし自分が外国人側だったら寂しくなる! ・ 自分から話し掛けて声を掛けないとダメ。勇気を持って言葉のキャッチボールをしないといけないんだなあと思いました。 ・ たえ英語が分からなくても,身振り手振りで伝えようと思えば伝わるといことです。 ・ やさしい言葉でしゃべる。自分からしゃべり掛ける。 ・ 相手に伝えたいという気持ちが大切。 ・ 自分からやれば,どうかなるさ。 <p>【Bの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分があいさつをして気付いてくれなかったりしたら嫌だし,マイケル先生とのコミュニケーションがないと,こんなメールはできないから,コミュニケーションは大切だと思った。 ・ 日本語と英語でコミュニケーションを取るの難しいから,コミュニケーションの大切さが分かった。 <p>【Cの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とても楽しかったです。
--

ウ 自文化理解

表5 自文化理解に関する自由記述

前頁図3 に見られるように, A評価:自文化(日本の文化)を意識しているもの57%, B評価:活動したことからの気付き40%, C評価:活動の感想のみ3%という結果になった。実際に自分たちの調べたテーマ,友達の調べたテーマを視聴したことなど,それらから類推して考えることができていたことから,活動を通して,異文化に触れることで自文化を意識することができたと考えられる(表5参照)。

<p>【Aの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなが作ったビデオで,浴衣などのことがもっと分かった。日本の良さは他にももっとあると思うので,伝えたい。 ・ 日本にも自慢できること(そば,浴衣,囲碁,将棋など)があるということは,とっても誇りだ。 <p>【Bの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年に1回くらいしか着ない浴衣だけど,マイケル先生に伝えてから,浴衣の良さがたくさん分かりました。 ・ いつもサッカーをしているけれど,将棋をしてみても楽しかったです。 <p>【Cの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私はワサビ無理だったけど,ビデオ撮影のときの寿司がワサビ入りだったけどおいしかったから,ワサビを食べられるようになった。

エ 異文化理解

表6 異文化理解に関する自由記述

前頁図3 ,表6に見られるように, A評価:異文化(世界)を意識しているもの26%, B評価:外国(カナダ)に興味をもっているもの26%, C評価:事実のみ記述48%という結果から,児童の意識の中にも,異文化へのアプローチが今ひとつだったことを今回の活動を振り返り感じていたようだった。

<p>【Aの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国にも伝統文化があると思うので,そういう外国(カナダなど)の文化についても知りたい。 ・ 日本とは料理が違うので,外国の料理について調べてみたい。 <p>【Bの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カナダのトロントのカヌー遊びを私もやってみたい!まず,カナダに行ってみよう。 ・ カナダのことについてもっと知りたい。 <p>【Cの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界って広いんだなあと思いました。 ・ ビルなど,日本にないようなものがあったこと。

しかし,「ALTと一緒に英語活動などをすることを楽しいと思いますか。」の問いに,事前調査ではその理由が圧倒的に「楽しいから。」であったのに対し,活動後は,「言葉など,違う国のいろんな文化を知ることができる。」「外国のことをいろいろ知ることができるから。」など,文化の違いに目

を向けていることがうかがえる(表7参照)。「英語を使って、外国の人と話してみたいなと思いますか。」という問いにも、事前調査の段階では「英語で話すとかっこいいし、楽しそう。」「外国に行ったとき話せるようになればいい。」という理由だったのに対し、事後調査では、「外国の人の意見(考え)が分かって楽しそうだから。」「その外国の人と仲良くなれるから。なれそう(コミュニケーションが取れそう)。」というふうに理由が変わってきており、生きたコミュニケーションを図ることで、異文化に興味を示している。この意識を大切にしながら、次のALTとの活動を企画し、教室環境を整えること、繰り返しこのような交流の活動を仕組んでいくことで、なお一層、「異文化理解・異文化尊重の態度、共に生きていく資質や能力の育成」、「日本人として、個人としての自己の確立」が育っていくと考えられる。

表7 ALTと一緒に英語活動などをするのを楽しいと思いますか。(事後調査)

- ・ 外国の人の考えとか、そういうのが分かってとっても楽しい。
- ・ 外国と日本を比べられたりできるから。
- ・ 英語も学べるし、外国のことを教えてくれるから楽しい。
- ・ 知らないことを聞くのが得なので、活動はおもしろいと思います。
- ・ 初対面でも積極的に話せばもっと仲良くなれるからです。ジエイ先生とも、給食のときいっぱい話しました。
- ・ メールなど、人とコミュニケーションができるから。
- ・ コミュニケーションが取れて楽しいです。
- ・ 英語を覚えると、他のときに使いたくなるので楽しい。

オ ICT活用

「マイケル先生からの手紙について・ビデオメールで交流したことについて」という、全体を振り返っての自由記述の「その他」の項目で、43%の児童がICT活用に関することにふれていた。このことから、情報モラルに注意を払いながらICTの利便性に気付き、上手に利用したいという意欲がうかがえる(表8参照)。「これからインターネットを使いたいですか。」の問いには、全員が「はい」と答えていた。

表8 ICT活用にふれていた記述例

- ・ 普通の手紙だったら、外国に届くのにかなりかかることもあるけど、パソコンだと一瞬でスパッと行くから、どんどんこれから使おうと思った。
- ・ インターネットは世界中で使えることも知ることができた。
- ・ 遠く離れていてもコミュニケーションを取ることができることが分かりました。
- ・ インターネットでの決まりや約束などが分かった。
- ・ インターネットに載せるには、いろいろ気を付けないといけないところがあるので、注意を払わなくちゃいけないで大変だった。

6 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

- ア ICTを活用し、カナダに住むマイケル先生を相手に設定したことによって、子どもたちのコミュニケーションへの意欲が高まり、その結果、自文化の良さを見直し、異文化への興味・関心を高めることができた。
- イ 身振り手振りを駆使したり、絵や写真を見せたり、電子手帳を使ったり、何とかして伝えようとする方略能力や学び方を体得する姿が見られた。
- ウ 「現ALTとのつながり」を求める理由の質が高まり、英語活動に対して、より意欲をもつようになった。このことは、中学校での英語を学習する上での素地になると考えられる。
- エ ICTの良さや情報モラルの必要性を感じさせることができた。

(2) 今後の課題

- ア 直接コミュニケーションにつながるための、より効果的なICT活用の単元開発
- イ 学習デザインの視点に立った、児童の興味・関心を引き出す環境づくり

《引用文献》

- (1) 文部科学省 『小学校英語活動実践の手引』 平成13年 開隆堂出版株式会社 p.3